

懐古趣味も大概にせい！という声もありますが・・・

今から26年前、「大人と子どもの共生の場」を創ろうの声有り

新今宮小中学校が廃校になったところ、野宿の高齢者も増えて

今号の夜間学校ニュースの裏面は、今から26年前に、センターや釜ヶ崎一帯で配布されたビラの紹介です。

今、三徳寮や生活ケアセンターがある場所には、新今宮小中学校がありました。いろんな事情で不就学となっていた子どもを受け入れるための学校でした。周辺の学校でも受け入れるようになり、生徒数がゼロとなって廃校となりました。

その時、跡地を、大人も子どもも共に使える施設にすべきだという意見が出ました。

子どもには安心して遊べる場所が必要だし、大人だって、勉強したり、ギャンブル以外の楽しみを探す場が必要だというのが、基本的な考え方でした。

一時期、要望の一部が、体育館や図書室を活用しての「子ども教室」として実現しましたが、現在のその部分が、生活ケアセンターになっていることは、みんなも知っているとおります。

何故そうなったのか？

当時の交渉記録によると、三徳寮については、

のじゆく こうれいしゃ ふ

保護施設が常時定員オーバーになっているので、必要。定員オーバーの理由は、昭和40年台には、施設に入る人の年令のうち40歳代は5%にすぎなかったが、現在は40歳代が40%になっており、高齢化の傾向が現れている（注：26年前の感覚です）。高齢病弱な人が増えているからということでした。

ただ、残り部分については、今後調整が必要だが、できるだけフリースペースをつくっていく、ということでもありました。

しかし、その後、高齢者を中心に野宿を余儀なくされる人がミナミやキタで増え続け、91年以降は激増。それに対応するために、生活ケアセンター設置となったわけです。

警察裏の公園も、二つに分けて炊き出しと子どもの共生のはずが、今や炊き出しだけの公園になっています。三角公園も同様です。

居宅保護の活用がしにくかった20数年前に、緊急避難的に必要であったことが、今もそのままの形で必要なのでしょいか。今も、事情は変わっていないと???

大人と子どもと児童公園

悟君と裕志君の死は何故?

「カギつ子二人踏切死」父子
家庭ノ身元五時間わからず
関西線遮断機くぐり抜け
昨年6月26日、朝日新聞で

このように報じられた事件は
みなさんの記憶にまだ新しく
いのではないのでしょうか。

父親参観日の代休日であつ
た6月25日、萩之茶屋小学校
一年生の悟君と四年生の裕志
君が、天王寺公園に遊びに行
き、その帰り道に、この悲し
い事故に会いました。

「子どもの里」にもよく遊び
に来ていた二人の変わり果てた
姿を前に、私達は、なぜこん
な事故がおきたのか、おきね
ばならなかったのか。なぜ二
人は死ななければいけなかつ

たのかと、情けなさや悔や
さでいっぱいでした。

なぜ悟君と裕志君は、天王
寺公園まで遊びにいったの
でしょう。

なぜ、萩之茶屋小学校校下
の児童公園の出入口には鍵が
かけられ、フェンスを乗り越
えたり、すき間から無理に入
り込まないと、子ども達が中
で遊べない状態にあるので
しょうか。

今年2月7日の毎日新聞に
よると、労働者がテントを
張るなどして公園に住みつき
始めたことから、地元町内会
の要請もあり、大阪市公園局
は「萩之茶屋南」を除く三公
園にフェンスを設置し、労働

者の野宿」を締め出さず、子
も達の遊び場を確保するため
と報じています。

しかし、現実には子ども達
も公園から締め出され、遊び
場を失なっています。

また「萩之茶屋中公園」は
半分を児童公園に、他の半分
を労働者のためにと、公園の
中央を、三メートルのフェン
スで区分されています。そ

きは、釜ヶ崎のこの地域で、
大人を見て、大人の中で育つ
ているのに、大人は大人、子
どもは子どもと分離しようと
しているのです。

問題は、公園にフェンスを
張るのか、施設するとか、公
園を大人と子どもに分離する
とかいうことでは解決されな
いことだと思えます。

て、そのことを本当は真剣に考
えていかねばならないと思つ
て、どうでなければ解決出来
ないことだと思えます。

金網で囲まれた公園で遊んで
みても、まるで檻の中にいるよ
うで、ちつとも楽しくない。
子ども達は近くの公園に遊び
に行かなくなりました。悟君と裕
志君の二人が、天王寺公園に遊
びに行つたのはそのためです。

二人は生命をかけて、この地
域に住む私達大人に、ぼくらの
本当の気持ちを真剣に考えて、お
じさん達をぼくらも、一緒に楽
しくいえる公園をつくって、
と叫び、教えてくれたのだと思
います。

この地域について深く考え直
してみない私達大人と行政の
慢さが、二人の子どもを命を奪
ったと言つても過言ではないと
思っています。今こそ大人と子供の共生を